

第78回全国議事記録議事運営事務研修会

第2日 班別討議の課題

【会議録作成に関する課題】

課題1. 会議録作成における生成AIの活用について

早稲田大学デモクラシー創造研究所の2024年実績に基づく調査で回答のあった全国1372議会のうち会議録作成に生成AIを利用しているところは429議会（31.3%）であったが、昨年の本会研修会では2つの班（16議会）の全てでAIを活用しているとのことであった。また、島根県浜田市議会では会議録作成業務の大幅な効率化に成功したとの報告もある。

会議録作成における生成AIの活用状況は日々変化していると思われるので、その現状について伺う。

- ① 生成AIを活用している会議は何か
 - ・ 本会議
 - ・ 委員会（常任委員会・特別委員会・議会運営委員会・その他）
 - ・ その他
- ② どのような工程で活用しているか。
 - ・ 音声からの文字化（音声認識）
 - ・ 要約処理
 - ・ 用字や様式のチェック
 - ・ その他
- ③ 活用に伴い、会議録作成体制に変化はあったか。
 - ・ 業務委託をやめた
 - ・ 作成作業の期間短縮ができた
 - ・ 速報版を公開できるようになった
 - ・ 使用要領・マニュアル等を整備した
 - ・ その他
- ④ 未導入の場合、導入に向けての検討を行っているか

課題2. 会議録の配付と保存について

- ① 原本と長に送付する会議録以外に、配布用の会議録を作成し、配布しているか
- ② 配布用の会議録は、冊子、電磁的記録、ネット公開のいずれか
- ③ 原本はどのように保存しているか
 - ・ 保管場所

- ・ 空調等の管理
- ・ その他

課題3. 録音トラブルへの備えについて

- ① 音響や録音にトラブルがあった場合を想定したバックアップ体制を構築しているか
 - ・ 電源、マイク、録音機にトラブルがあった場合の対応
- ② 議場紛糾時の音響操作の要領などを定めているか
 - ・ 議長席以外のマイクはオフにするなど、取扱いを定めているか
- ③ 録音ができず会議録の作成ができなかった事例があるか
 - ・ 会議録ではどのような処理をしたか

【議事運営に関する課題】

課題４．議員提出議案をめぐる留意事項

- ① 本会議において提出議員に質疑を行う場合、議員に反問権は認められるか
- ② 議員提出議案について本会議で執行部に質疑することは可能か
- ③ 議員提出議案が所管委員会に付託されたが、委員長が提出者、副委員長が賛成者の場合、委員会は誰が運営すべきか。
- ④ 委員会において委員長が提出者の議案が否決された場合、委員長が少数意見の留保を申し出ることはできるか。また、少数五年の留保が認められた場合、本会議における口頭での委員長報告は誰が行うことが適当か。

課題５．初議会における留意事項

- ① 選挙後、初議会の前に議員が辞職願を提出した場合、辞職を許可するのは誰か。
- ② 初議会の前に請願を提出したいという打診が住民からあった場合、どのように対応することが適当か(受理するか、受理する場合受理権者を誰にするか)。
- ③ 初議会の運営(日程等)について、改選前の議会運営委員会等で決定できるか。
- ④ 初議会の開会時の年長議員が臨時議長に就任したが、開会后、臨時議長よりも年長の議員が出席した場合臨時議長は交替すべきか。

課題６．分割付託

- ① 議案一体の原則から予算は分割付託できないと考える場合、「できない」というのは具体的にどのような意味を有するのか。違法ということか、適当ではないということか、なぜ適当ではないのか。
- ② 予算を分割付託している場合、歳入は分割していないのが一般的であるが、歳入と歳出は別々に審査することが適当と考えるか。
- ③ 予算を分割付託したところ、ある委員会は可決、ある委員会は否決という議決結果であった。本会議では異なる審査結果を受けて、どのように諮ることが適当であると考えるか。
- ④ 条例案の内容が複数の委員会の所管に分かれる場合、分割付託することは適当か。分割付託に代わる方法はないか。